

けふの聯合検閲

四千名の消防組員參集

終つて觀櫻の宴

平署管内四町十七ヶ町村(三坂組不參)消防組聯合檢閲は本日午前八時から平町國道に神谷組を先頭として二十一組四千名の消防組員法被姿も勇ましく整列、横山平署長馬に跨り、小林次席警部補以下各警部補自動車にて隨行し人員、服装の檢閲を行ひ終つて神谷組より順次警城中學校々庭に向け出發、全員到着するや國旗掲揚あつて紀律訓練に移り二十一組各々日頃の訓練ぶりを發揮、次いで唧筒取扱、平第一少年消防隊員の唧筒取扱、平湯本の自動車唧筒操練あつて晝食零時半より左記百四十名の優良組員及び火災功勞者の表彰、金馬簾の授與式を舉行、横山署長の訓示講評、來賓草野縣議の祝辭あり受賞者總代玉川組頭高萩繁氏の答辭あつて分列式を行ひ午後二時解散、續いて松ヶ岡公園に於て觀櫻の宴を張つた(平組は遠慮) ▲平消防手 岩木朝吉 今宮政衛 笹目八郎 酒井善雄 藤田規 八木政吉 坂本信義 ▲内郷(伍長)齊藤正壽 (消防手)馬目彌四郎 草野喜雄 鈴木千松 山崎一太 緑川顯司 木村新吾 ▲湯本(小頭)若松

藏(伍長)春山基 永山榮一(消防手)比佐利興 木村進一 村上金八 菊地菊治 ▲磐崎(小頭)志賀貞藏(伍長)高木一男 佐藤道雄 岡部芳男(消防手)大樂伊藤政雄 佐川子之松 鈴木七味 野木勝藏 ▲玉川(組頭)高萩繁彌(小頭)小松元司(伍長)馬目甲(消防手)小松守 小泉敏夫 高萩秀之介 ▲鹿島(消防手)藁谷都廣 小野藤一 志賀又一 ▲高萩富雄 門馬保彌 ▲小名濱(小頭)小野定次郎(伍長)大平勳 志賀清造(消防手)阿部幸太郎 馬上宗 牛塚辰吉 小野義忠 吉田榮次 ▲江名(小頭)白土國治(伍長)新妻勝枝 小野清 作山晋太郎(消防手)坂本菊松 坂本長太郎 坂本彦三 金成恒男 馬目長年 片寄定安 吉田新一郎 ▲豊間(小頭)政井武男(消防手)大峯重雄 四家政 藁馬目廣 鈴木淺次郎 高木金太郎 ▲高久(伍長)矢吹清貞(消防手)箱崎隆雄 田仲秀次郎 大谷朝義 菅波榮四郎 鈴木一枝 ▲夏井(小頭)部長(稻葉要)(小頭)渡邊秀保(消防手)渡邊菅男 矢

吹源一 矢吹朝光 鈴木泰 鈴木助十郎 ▲飯野(消防手)鹽己定 江尻軍藏 江尻利重 遠藤徳市 大河原喜秋 山崎雄太郎 小野私明 鈴木平八 ▲神谷組(消防手)佐藤信一 志賀武 佐藤忠義 平田直一郎 松本彌太郎 中根正雄 森山義男 ▲平窪(小頭)八幡善平(伍長)太田徳男(消防手)松本晃一 明智藤一 松崎貞治 吉田秀一 鈴木政一 大山忠平 ▲下小川組(小頭)鈴木吉信(伍長)吉田正次郎 箱崎金市(消防手)吉田清一 根本善治 ▲上小川(小頭)白井清治 大平正(伍長)草野重松 ▲赤井(伍長)吉田傳三郎(消防手)磯上松行 岡田松一 平澤角左衛門 大平直造 松本明 ▲好間(伍長)中村龜太 鈴木喜代治(消防手)大谷利實 水田時彌 井出林太郎 齊藤勳 大瀧清 勝治貞 司鈴木清十 ▲水戸(伍長)坪井健治 大木嘉祥(消防手)合津光男 阿部卓爾 阿部榮吾 ▲箕輪(消防手)片寄彦七 遠藤辰男 高野吉丸 ▲澤渡(小頭)佐藤甚一(伍長)阿部安信(消防手)早野賢造

樞淵鐵之助 ▲三坂(消防手)吾妻良貞 本田用一 大竹治左衛門 藁谷親義 藁谷政一 ▲金馬簾受與組 七小川 下小川 好問組 各一條 内郷二條 ▲火災功勞者 赤井福島炭礦附屬病院看護婦橋本茂子 岡田キミヨ 湯本町

渡邊末吉 磐崎村中川光 雄

收入役の引繼 辭職 した平町収入役大河原金之助氏の同代理西野源次郎氏への事務引繼は十七日終了し本日この旨縣知事へ報告した

本會の乘艦資格者

觀覽其他心得

本年度海上管轄點呼のため五月二十四日軍艦本會が小名濱に廻航するは既記の如くであるが同艦では海軍思想普及のため例年の如く左記人々の宮城縣鹽釜町までの乘艦及び天候等の障害なき際一般の觀覽を許可するは勿論軍事講演會活動寫眞軍樂隊の派遣は寄港地附近の希望團體に對し差支なき限り申込に應ずるとのことにて希望團體は豫め直接艦長に照會されたと、尙本會は二十四日午後二時三十分平湯抜錨、同午後三時十五分小名濱入港、二十六日午前七時福島縣乘艦者二百五十名、宮城縣百五十名を乗せて鹽釜に向ふ豫定である

▲乘艦資格者 官公使、帝國議會、府縣會、市町村會議員その他在郷軍人會員、海軍々人及家族、新聞記者、之に準すべきもの、學校教員學生、生徒、青訓職員生

二荒伯爵來平して

國際事情の講演會

日本國際協會福島支部では來る廿六日午後六時より平署會議室に於いて國際事情講演會を催すが演題及び講演者左の如くである

「最近の世界情勢と日本の立場に就いて」前伯爵大使館參事官赤津祐之氏

「建國に現はれた國際精神に就いて」貴族院議員伯爵二荒芳徳氏

△新婚 姻 △新川一 藤右衛門氏長男 丹野環氏(二三)風間ソネさん(二二)

△回死 亡 △副宣町七 草野キタイさん(三二)

一册の代金で

御希望通りな 五册の雜誌が 自由に讀める 川崎文庫 電六三〇番 (申込次第規則書送呈)

常設館だより

平館 全勝現代劇 大江美智子主演『戀すればこそ』トーカー漫畫『お伽王國』大郡時代劇 海江田讓二 月宮乙女主演 『拾遺百兩笠』活時代劇 片岡千恵藏 柳原歳子主演 『三日月夜種切り』

世界館 松竹ニユース 嵐プロ時代劇 嵐寛壽郎 淡路千夜子主演『丸橋忠彌』松竹時代劇 林長二郎 飯塚敏子主演『刺青判官』オールサウンド 松竹現代劇 栗島すみ子 岡譲二主演『いろはにはへど』

春陽に恵まれて

縣社祭禮全く終る

昨夜長橋青年八十名

神輿奉仕の大人無事果す

平町鎮座縣社子鏡倉神社祭禮は十七日の宵祭りに次いで昨日日本祭りを執行、さん／＼と降る春陽の下金色燦爛と輝く神輿午前八時渡御長橋町青年團員八十名奉仕の下に各町青年分團神輿をかついでそれ／＼町内を一週して「ワッショイ、ワッショイ」と練り廻せば全町奉祝と感喜にただ湧き立つかけて平町の隅々まで延長五里の路々を無事一名の負傷者もなく午後八時神輿境内に還り、縣社子鏡倉の祭禮は全く終了を告げた尚長橋町ではこの夜神輿渡

片倉製糸決算

磐城片倉製糸第六期昭和八年四月より九年三月末まで株主總會は二十八日午後一時から同所會議室に於て開き營業報告、財産目録、貸借對照表、損益計算書並に損失金處分案の件を附議するが同社の成績は昨年の糸價暴落に依り八十萬圓の損失を招き無配當の模様である

郡下優良統計吏員

廿二日の縣下大會に表彰

郡下町村統計吏員中本月廿三日の飯坂町小學校に開催される第五回縣下統計吏員大會當日優良吏員として表彰されるは玉川村新妻清祐飯野村佐藤專二郎、江名町太兼吉の三氏である

一般公衆に

局内公開

明日の逓信記念日
平郵便局では明日の逓信記念日制定の催しとして午前九時より午後三時迄局内

後一時から町役場會議室に開き提出案件に於き協議したが散會後公園常磐に於て青沼町長が區長を招待して觀櫻の宴を張つた

平第一校

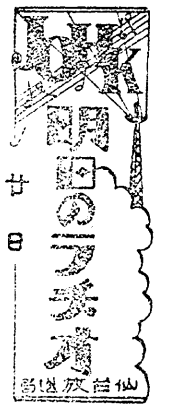
正副級長

平第一小學校では本年度に於ける尋常三年以上の正副級長を本日左の如く決定した

△尋常科(三ノ一)根本幸三郎、川崎次男(三ノ二)廣木豊、柴田季雄(三ノ三)青木信夫、柏木洋二(三ノ四)石田吉男、星大(四ノ一)酒中健、中澤幹太郎(四ノ二)唯野信、大谷繁雄(四ノ三)石川榮一、牧野好夫(五ノ一)三井眞一、鈴木善彌(五ノ二)正木季夫、吉澤一行(五ノ三)龜山正邦、小松崎富夫(六ノ一)佐々木高滋、菅本進(六ノ二)杉本光男、千葉直豊(六ノ三)菊地宗俊、木田菊壽(六ノ四)高階文、三小林靖△高等科(高一ノ一)田中忠太郎、薬谷公義(一ノ二)吉田和佐美、色川茂(二ノ一)大越元吉、仲島正喜(二ノ二)吉田喜造、中島利夫

△愛婦の幹事會 平町愛國婦人會では二十一日午前十一時から公園春木亭に於て幹事會を開く

△樋口教諭赴任 平商業學校では同校一、二學年圖書科擔任教諭として赴任した樋口三郎氏の新任式を



今晚も明日も北西の風天気好くなる

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
名作物語「西遊記」(三)東京放送児童語劇協會
後六、二五 漢文講座(四)菅谷軍次郎
後七、三〇 講演「園下將兵に代りて」第八師團長
中村孝太郎
後八、〇〇 長唄「連獅子」
笛小萩 唄時榮
後八、三〇 俚謡 一、追分 二、會津大津繪 三、相馬 流れ山 四、麥搦唄 尺八 佐藤峯月 同佐藤勝彌
後九、三〇 時報「ニュー」
氣象通報 番組豫告

水戸運輸管内

各驛業務協議

水戸運輸事務所管内各驛業務協議會は来る廿七日午前十時から平町住吉屋旅館に開き各驛業務主任五十餘名が諸般を打合せて觀櫻會を催すと

曾我會長辭職

石城教育會會長曾我直治氏は過般第一小學校長を退職した關係上本日辭任届を提出し在職十一年に及ぶ會長を辭したので同會では来月上旬總會を開き後任選舉を行ふ

高齢者招待

草野村にて

草野村では自治制發布記念日に當る十七日午前九時から村内高齢者表彰式並に納税組合表彰式を同村公會堂に於て舉行したが表彰された高齢者は八十才以上、九十二才まで合計四十人、優

農會講習同窓

石城郡農會講習生同窓會では十九日午前十時から平町團體事務所に於て評議員會を開き郡農會米山技手の講演があつた

明日

前六、三〇 基礎英語講座
(六)岡倉由三郎
前七、二〇 聖典講義「論語講話」東京文理科大学
教授文學博士諸橋徹次
前九、一〇 料理談話「家庭向お花見辦當の作り方」
前一〇、三五 母の講座
「ピクニックと保健」一井君子
後一〇、〇五 落語「格氣見習」春風亭柳樂
後二、〇〇 家庭大學講座「日常生活と法律」三宅正太郎
後六、〇〇 子供の時間
名作物語「西遊記」(三)東京放送児童語劇協會
逓信の夕
後七、三〇 講演 逓信大臣南弘
後八、〇〇 映畫物語「夜明け」生駒雷遊
後八、三〇 歌謡曲 山里節子他
後八、五〇 ラヂオドラマ「電信切支丹」喜多村綠郎他
後九、五五 日本棋院春季東西大手合戦續

唱歌會

片倉製糸が

片倉製糸工場では山本所長の發案により今月より月一回全所職員を網羅する唱歌會を催すと

裁判所たより

△双葉郡上岡村大字本岡宇關根六九元夜の森郵便局員根本榮(四)が昨十二月中旬の公金六百廿六圓八十錢を横領檢擧された事件は責任上局長が一部を辯償したが殘額四百四圓六十錢に對し仙臺逓信局では此程局員増子光吉氏を代表とし平支部に松本を相手取り損害賠償の訴へを提起したのでその第一回公判は本日午前十一時より中島監督判事係り關口判事立會のもとに開かれた

- △女中 二十才 高卒
- △土工 四十一才 高卒
- △仕立職見習 十九才 高卒
- △石炭積込夫 三十一才 高卒
- △女中 十八才 二十才位 尋卒 月四圓位
- △女中 十五才 十八才位 尋卒 以上月三圓五圓
- △商店員 二十才前後 商業卒 初給五圓十圓位
- △女中 二十才前後 尋卒 月五圓六圓
- △給仕 十七才 高卒
- △農夫 三十四才 尋三修
- △料理人 四十一才 尋卒
- △料理人 四十二才 高卒
- △女中 二十才 高卒
- △土工 四十一才 高卒
- △仕立職見習 十九才 高卒
- △石炭積込夫 三十一才 高卒



田邊南龍(作) 山本英春(書)

小紫とのなれ初め
『何んと云はつしやる、彼の小紫を此の席へ呼びたいと仰しやるのか』
『まあお静かに……』

中央へ孔雀が羽をひろげたりやうにうつけを羽織つて座り、長兵衛始め一同に黙禮をする、大権職のものだから小紫に盆をさして

さういふ譯だから悪からず思つてお呉れなされ』
と笑ひながら云つたので夫は何の人かと思つて小紫が座中を見廻し、乾したさかすきの献す處を深してゐる、長兵衛も笑ひながら『コレ平井さん何とした事だ、餘りと云やア初心過ぎる、ズツと此方へ来て花魁のさかすきを受けなさい』
權八も夫を機會に笠を脱て前へ進んだ、小紫が其の顔を見ると吃驚した、前髪



權八は拜みたい位に思つた、治兵衛が下へ降りて行つて主人に話をすると、徳平も首を捻つて
『さアどうだか分りませんが、兎に角花魁に伺つて見ませう』
雪駄を突つ掛けて徳平表へ飛出して行つて、その事を小紫に囁いた、小紫も今評判の幡隨院長兵衛の座敷だといふので直ぐに領いて真砂屋の店へ入つて来た小紫が入つて来ると權八もまだ初心だ、急に體裁が悪くなつて、頭からスッポリ笠をかむつて隅の方に小さくなつてゐる、小紫は座敷

『大夫、いつも御全盛で目出度い、就中今夜は大事の役目の道中のお邪魔を致したのは、甚だ不躰心ないやうぢやアあるが、實は之に同道した田舎者、無粋の親玉が是非とも君様にお近付きをしたいと思いますといふ強い懇望

立の水の垂るやうな美少年だ、思はず小紫も顔をポーッと染る、仲の町の植櫻と妍を争ふ程の美しさだ
『貴郎に上げますか』
と小紫が献すのを、權八が震へる手先で受けながら『忝なうござる』

と云つた、之が抑も二人の初めさかすきで、夫が又二人の身の破滅の原因となつたのでござります、其の夜は其の儘權八も長兵衛等に連れられて歸つたが翌日になると治兵衛を責めぬいて吉原へ参り、真砂屋から送られて始めて三浦屋の客となつた、夫が病み付きで雨の降る夜も通ひ續ける長兵衛も夫を聞いて心配をしてをります。
此の頃旗本水野十郎左衛門を頭領とする白柄組の連中と、幡隨院長兵衛身内の町奴との間に確執を生じて至る處で喧嘩がある、昨日は向島の花見で、長坂血槍九郎と夢の市郎兵衛と喧嘩をしたが、今日は吉原で會津長五郎と近藤登之助と間違ひがあつたといふ噂で持切りだ、ある日半井權八が相變らず小紫の部屋で遊んでゐると、若い者の喜助といふ男が飛んで来た

◎店員募集
年令十五才以上希望者は至急御來所を乞ふ
◇委細面談
平町 銀治町
牛久製菓所
電話三八七番

地方擴張の爲
社員十數名募集
一、相當學力を有し紳士的奮闘家は來たれ
一、固定給外月收多大
一、但し希望者は午前中面談す
共保生命壽險監督所

小店員數名募集
年齢十五才ヨリ
優遇ス
御望希ノ方ハ午後一時ヨリ本人御來談下サイ
平町田町七一
レストランサロン
電話三五二番

露披御車新
三四年型デラックスセダンが
入荷致しました
貨切の御用命の節は
電話六八五番へ……
是非御試乗の程を願ひます
三井タクシー
電話六八五番

御花見の御催し
宴會等の節は
敷物、幔幕等準備致し置ますから大小に不拘御用命の程を御待して居ります。
折詰の御注文は特に勉強致します。
公園内
割烹 尼子亭
電話二三〇番
阿康藥舗
電話四四番
キリ印 (ヤケド キリキズ クサ はたのアレ) 太乙膏 (シモヤケ たゞれ) 平町古銀治町一〇 專賣店

外科
門 專 光 X
線 科
上田外科醫院
平町 南町
電話一九二番